

# 日本聖公会 川越基督教会

## 資料委員会 便り

ARCHIVES NEWS

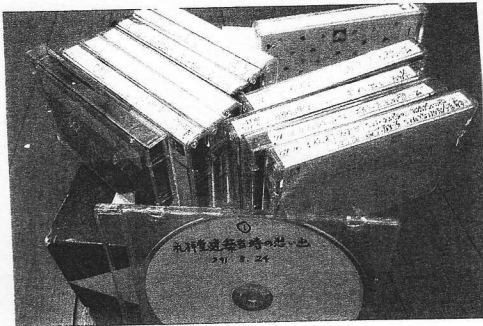
第 8 号

(2021年10月)

資料委員会の作業奉仕もコロナ禍の中、感染対策を十分に配慮をし毎水曜日に数名の委員が奉仕活動に励んでいます。最近は新たな外部資料も持ち込まれ作業量も増えています。こんな中今回、全委員が集い、これからの活動、目標について話し合いの時を持ちました。

資料保管委員会は以下の活動を行う

- ① 教会資料の収集・整理・保存のための活動
- ② 教会の歴史やゆかりの人物についての資料の収集・調査・研究活動
- ③ 上記資料を活用し、関係する諸団体との知的交流に役立てるための活動
- ④ その他、川越基督教会の先人の信仰に学ぶための活動

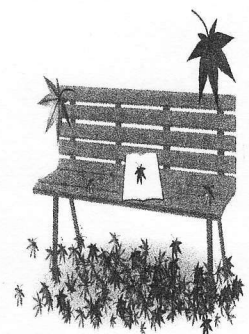


この1月に亡くなられた松村祐二さんは、資料委員会の初代委員長を奉仕なさいました。個人で集められた膨大な資料、書籍の川越教会に関するものをご遺族から教会に委託されました。この中に「音声による一聞き語り川越教会の昔し」と題したカセットテープ12巻があり、これを音声加工会社テアック社に依頼、音声CDに変換、ドロップボックス上に保管しましたので、手持ちのパソコンから再生する事が出来ます。

本年より資料保管委員長をドゥエル・ベアリさんが担当下さることに  
なりました。ドゥエルさんは東京国際大学名誉教授の他郷土史関係のお  
仕事として

市立川越博物館協議会委員 小江戸川越観光親善大使  
川越文化財保護協会員 川越民俗の会委員  
南公民館「改めて川越学事始め」講師 を担当されています。

最近、資料委員会は三つの生涯記録類を扱う事が出来ました。  
川越教会創立期、伝道師として奉職された山邊久吉師の「山邊久吉  
師の洋上日記」、1906年当時の「アプタン師の手紙・日記類」、  
そして、明治末年に司牧された駒野義夫師の「駒野日記」が届けら  
れました。 今号はこの「駒野日記」を読みました。



## 「駒野先生の絵日記－駒野義夫司祭の日記の整理作業について－」

玉木 純子

### 【「駒野日記」について】

四月から故駒野義夫司祭の日記を読んでいます。駒野師は明治5(1872)年生まれ、聖公会の伝道師・司祭として東北～関東の教会で司牧されました(昭和21(1946)年没)。川越基督教教会には明治35(1902)年～大正3(1914)年まで、13年間赴任されています。

その主な記録は川越へ来る前年から始まる、昭和19(1944)年までの44冊と、明治25(1892)年の日記(ノート)です。主に警醒社の『吾家の歴史』(わがやのれきし)や、博文館で作られたB6～B5判の定番の商品『家庭日記』や『當用日記』(當用・当用＝常用。いつも使うの意)が用いられていますが、中には舶来ものでしょうか、オシャレなノート(明治25年)もあります。いずれも細かい毛筆で書き込まれ、随所に彩色されたかわいらしいイラストも添えられています。思わず「絵日記って美しいひとつの世界だなあ」と読む側も楽しんでしまいます(日曜学校の皆さんにもいつか見てもらいたいです)。こんな風に日記をつけられたらそれだけでも大事に取っておきたいと思われそうですが、後世に記録を残すということを考えておられたのでしょうか。

これら一連の日記の重要性については、後に聖公会史家の松平惟太郎司祭(当教会も司牧)や森清一司祭の著作(後述)の参考とされるところとなり、その形跡が今なおたくさんの付箋(短冊状の書付・メモ)として日記に挟み込まれて残っていることからもうかがえます。教会側に備えられる日誌ではなく、個人的な日記であったことがシリーズで残ったことの決め手かもしれません。とはいえ、今日までの保存はひとえにご親族の方々のおかげでもあります。

資料は所有者の駒野洋一さん(義夫師のお孫さん)のご厚意で北関東教区へ寄贈されることになりました。引き取りに伺ったご縁で資料委員会が一時的に保管・整理をしています(その経緯については山本氏の報告へ)。

### 【整理作業の経過～分かったことなど～】

日記を大まかに分けると、年代の早い順に駒野青年二十歳の青春日記(ノート)と、伝道師・司祭として派遣された弘前・川越・府中・日光・大宮時代の日記があります。日記の簡単な目録はドゥエル氏がいち早く作成してくれましたので、そのことがまさに、この報告を書くのに役立っています。

駒野伝道師は川越での十数年間の伝道において「芋堀り宣教」(詳しくはさつまいも研究家

ドゥエル氏の報告へ)を志し、晩年の田井正一司祭や女性宣教師たちとの関わりの中にありました。明治 38(1905)年には英文日記もあります。慶應義塾大学卒業の駒野師は英語での交流に積極的であったようです。主な女性宣教師は C・G・ヘーウッド師、A・L・ランソン師、E・F・アプタン師、L・H・ボイド師で、そうそうたるメンバーが来日していた時期に重なります。ちなみに、前述した松平司祭は教会史『鳶の教会－川越基督教会百年史－』(1980)を、森清一司祭は伝記『みどりの舟－E・F・アプタン先生の愛仕の生涯－』(1977)を執筆するため、これらの日記を参考に用いられました。

二十数年にわたる大宮聖愛教会では関東大震災や第二次世界大戦といった激動の時代をくり抜けています。終戦の年など、重大ないくつかの欠号分もありますが、委員会ではそれらの日記もどこかの場所に大切に保管されていることを願っています。かつて存在していたということは埼玉新聞の記事で明らかになっているからです(昭和 44(1969)年 7 月 27 日付、埼玉県立文書館所蔵)。

まだ少しですがこれらの資料を読んでみると、遠き時代の暮らしや筆者の思いなどが身近なものに感じられてきます。明治 35 年の購読新聞は『萬朝報(よろずちょうほう)』、弘前教会で足尾銅山鉱毒被害への支援の動き、生まれたばかりの赤ちゃんの具合が良くない…などとひとり文を綴る中で、自身がキリスト教文学や歴史を大事に思うことも書き留めておく。一市民として、聖職者、父親、または一人の信徒として。委員会はこの日記について、一司祭の四十年間にわたる記録は貴重な文化遺産であるとの認識に基づき、大切に扱っています(「資料保管委員会活動の目的」参照)。

上記の日記に関しては、スキャンをした資料は PC 画面上で、そうでないものは教会図書室で見えています(スキャンはドゥエル氏による)。実物を間近に見られるのはかけがえのない体験ですが、他方スキャンされたデータは文字の大きさが自在にもなり、自宅でも見られて資料の劣化を少なくするためこちらも悪くないと思うこの頃です。実物の扱いには注意を要します。ほとんどの日記の背表紙は外れかけており、紙も永年の保管で変色・劣化が進んでいる状況です。中性紙の専用の袋に保管したいところですが高価なので、まずは(委員会自前の)茶封筒に一冊ずつ収納して保護しています。

現在コロナ禍ではありますが、当資料に限らず、図書室でのスキャンや目録の入力作業を継続的に行なっている委員は(あいうえお順)、一色玲子さん、野澤みどりさん、若宮光子さんの 3 名です。また、資料に関する助言や話し合いに関わっているのはブリュンガー・クリスさん、森信幸さん、山口みどりさん。遠隔での入力作業指導はブリュンガー・省己さんが一貫して行っています。この他にも所属をしてくれている委員がおり、心強い限りです。

## 「駒野日記」を手にするまで

山本 元

聖職者の日常を描き示す日記類は、管区の資料目録を見ても多くは保存されていない。その中2011年に東京教区資料保全委員会が纏めた「田井正一日誌」もその一つである。これは1887年（明治20年）から2年間の牧会を中心にした日常記録である。

今回、手元に届いたのは駒野義夫司祭の40年間に亘る、人生の大半を記録した「駒野日記」である。この記録文書は、これまで松平惟太郎司祭による「川越教会100年誌」、森清一司祭著の「アプタン伝・みどりの舟」を始め多くの歴史書に引用、参照されてきた。県下の幼児教育の先駆けとなったアプタン師との関わりも記したこの日記が、二男の駒野乙夫氏宅から発見されたことを、駒野師没後25周年の1969年7月の民間紙（埼玉新聞）は伝えている。

その後、この貴重な資料は乙夫氏の子息、駒野洋一氏宅に保管されている事が判明、日記は大型旅行ケースにきちんと収納されていた。今回、洋一氏のご厚意でこの日記は暫く川越教会でお預かりする事が出来た。

この日記と一緒に「駒野家家系図」も拝見する事が出来た。これによると、駒野義夫司祭の義兄に土田三秀司祭、その娘婿が詩人・伝道師の山村暮鳥師であることも知った。

## 駒野義夫伝道師と川越芋

ドゥエル・ベერი

駒野伝道師は弘前にいる頃から、川越芋に馴染みや憧れがあった様です。1902（明治35）年10月6日、弘前昇天教会より田井正一司祭の設立した川越基督教会へ転勤するために出発し、10月11日川越町に着まで、川越芋がほぼ毎日様々な形で日記に現れます。最も印象深い文は出発日の物です。サツマイモの産地川越へ転勤する事なり、芋を掘ると共に伝道も芋掘り主義と似ていることと思ひ、自分は「芋掘男」と名乗りました。

実際にサツマイモは口に合ったでしょうか。日記に月毎の会計欄もありますが、川越に着くから1902年末までサツマイモを買った証明がありません。しかし、芋掘男で知られてきたら、恐らく、信徒からの差し入れもあったし、芋掘りに招かれたこともあったかも知れません。



〈写真説明〉

後列左2人目 駒野伝道師、田井司祭

前列左2人目 ヘーウッド師 右端ランソン師

1907年6月

ホームページ「日本聖公会川越基督教会」を立ち上げ、資料保管委員会のページ開けると、資料委員会便りの既刊全号をお読み出来ます